

5月16日から対面授業制限レベルを「レベル2」に緩和し、首都圏キャンパスへ

東京医療保健大学では、現下の感染拡大状況を評価し、学生の皆さんのご意見も踏まえて5月16日から首都圏の対面授業制限レベルを「レベル2」に緩和いたします。

これにより、登校回数の上限は週2回から週3回に増えます。また密接を伴う演習の制限も行いませんので、演習科目を行いやすくなります。時間割については、各学部・学科からのお知らせを参照ください。本学では、レベルの緩和に伴う時間割変更は、予めお知らせしていたように2週間以上前にお知らせすることとしています。授業以外の様々な予定もあるかと思いますが、この期間中に調整をお願いします。なお、今後も不織布マスク着用、手指衛生、黙食の継続などは引き続き重要です。

大学では科学的知見に基づきワクチンには一定の効果があると判断しています。海外の研究では「ワクチンを2回接種した40〜69歳よりも、3回接種した70歳以上の方が入院率が低い」（図1）などのエビデンスがあります。若年層の入院率は接種回数に限らず低いものの、回数による明確な差もあります。本学での感染事例はどのキャンパスでも発生しており（図2）、濃厚接触者への聞き取りでは家庭内感染が7割を占めています。このため、学生本人とご家族がともに3回目接種を受けていただけるよう5月13日・14日に五反田キャンパスで職域接種を行いますので、首都圏に在住の方はぜひご検討ください。



図1：(海外)接種回数・年齢計級別入院率 (人口10万人あたり) Lancet 2021 Dec 4;398(10316):2093-2100.

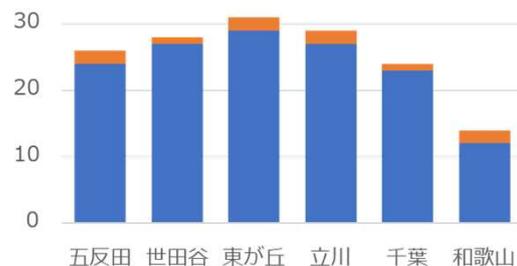


図2：2022年1月以降の学生・教職員感染者数(単位:人)

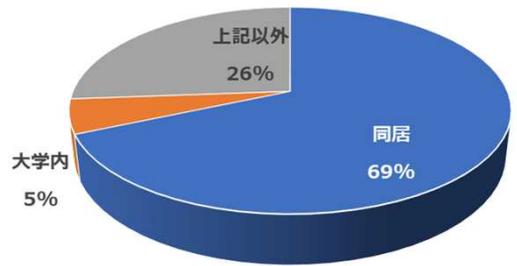


図3：2022年1月以降の学生・教職員濃厚接触者接触経路

学修管理システム(LMS)の利用時間 前期より増加傾向

本紙第20号(2021/8/30)では7月の学修管理システム(LMS: Learning Management System)の利用状況をお伝えしましたが、後期に入り各学部・学科とも増加の傾向にあります(図4)。

利用時間帯を見ると、ログインには10時台、12時台、14時台と2時限・3時限・4時限の開始直前が多いことがわかります(図5)。これにはリアルタイム授業で用いられる場合に限らず、対面授業においても出席確認や資料配布(ペーパーレス化)、リアクションペーパー提出など幅広い活用が進んでいるようです。なおLMSによるレポート提出は、12時台、16時台と23時台が多い傾向にあります(図6)。これは課題の提出期限が、正午、17時、23時59分に集中していることがうかがえます。

LMSには、自らの学修記録を蓄積する機能があります。本学では、2021年度に採択された文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン(Plus-DX)」を活用し一部科目で学修成果を自己評価するポートフォリオの拡充を図りました。今後もLMSの充実に努めてまいります。

ご意見・ご提案は
こちらからどうぞ

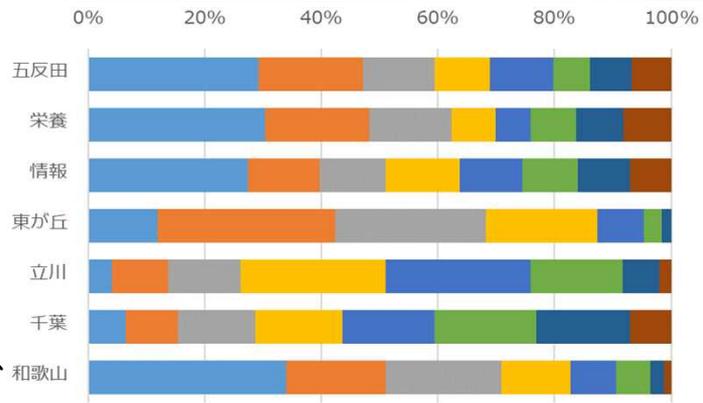



図4：2021年1～2月の学生別LMS利用時間(h/月)

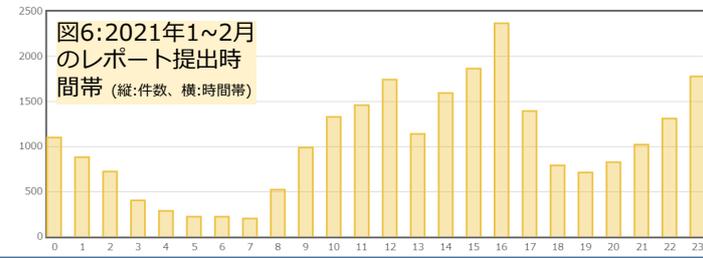


図5：2021年1～2月のLMSログイン時間帯 (縦:件数、横:時間帯)
図6：2021年1～2月のレポート提出時間帯 (縦:件数、横:時間帯)